R5.9.8　茨城大学 公開拡大FD
「現場が動きだす大学教育のマネジメントとは
『学修の質保証』への転換」

茨城大学の
『現場が動きだす教育マネジメント』

茨城大学 全学教育機構
副機構長/教授 嶌田 敏行

はじめに

- 後半では、ワークとデータを通して、茨城大学の教育の内部質保証の特色について報告します。

ワーク１　教育の目標

貴学（もしくはある学部）のディプロマ・ポリシーを挙げてください。

よく思い出せない場合はキーワードのみでも可

学内の方

学内：公開FDワーク1 教育の目標
https://forms.office.com/r/gX8TPZeK6w

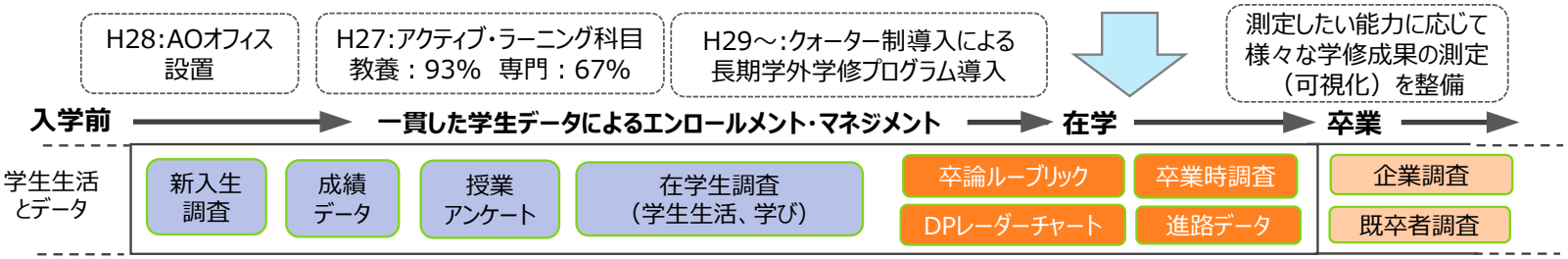
茨城大学以外の方

学外：公開FDワーク1 教育の目標
https://forms.office.com/r/BuKwFEgSUx

茨城大学の教育目標

茨城大学の教育目標:
「変化の激しい21世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことにできる総合的人間力を育成すること」

身につけるべき5つの能力
（茨城大学型基盤学力）
①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力・スキル、③課題解決能力・コミュニケーション力、④社会人としての姿勢、⑤地域活性化志向



全学のDP（学士課程）

（世界の俯瞰的理解）自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解

（専門分野の学力）専門職業人としての知識・技能および専門分野における十分な見識

（課題解決能力・コミュニケーション力）グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、および実践的英語能力を含むコミュニケーション力

（社会人としての姿勢）社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観，主体性

（地域活性化志向）茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

DP達成度聴取例

（世界の俯瞰的理解）自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解

- 自然環境に対する幅広い知識
- 国際社会に対する幅広い知識
- 人間と多様な文化に対する幅広い知識
- 世界を俯瞰的にとらえるための視点、視野および素養

合成する場合もある

在学生：
身につけつつあるか

卒業時：
身につけたか

卒業３年後：
役に立っているか

就職先企業：
本学学生がこのような知識などを持っているか

※要素分解の際にリテラシー、コンピテンシーについて、あまり意識はしていない

学位授与方針(DP)の要素・能力を指標とした学びの追跡

全学共通DPの5つの要素・能力

- 世界の俯瞰的理解
- 専門分野の学力
- 課題解決力・コミュニケーション力
- 社会人としての姿勢
- 地域活性化志向

DP
導入教育
（コミットメントセレモニー）

1 → 2 → 3 → 4 → 就職先

意見反映

① １年ごとのDP達成度

② ４年間のDP達成度

③ ３年後の
DP活用度

④DP達成度（直接）

DP：diploma policy

入学時から卒業後まで、DP達成度（学修成果）を追跡し**全学で共有**

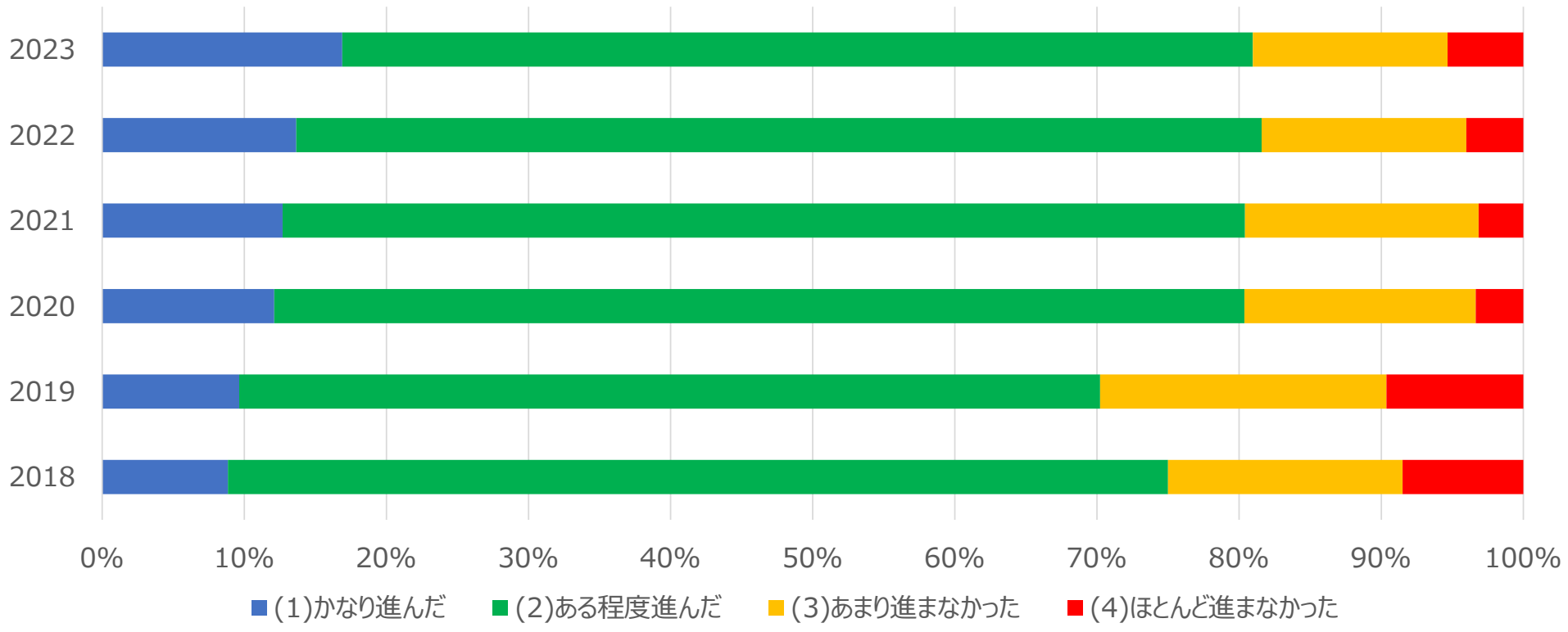
DPをどのように作るのか

- ３つのキャンパスに分かれているので、せめてDPは１つにしよう、という考えがあり根幹部分を作る。
- 学内的には改革が進まず「何もしない大学」と思われているのでは、という危機感。
- １つのDPを作って、そこに追加と再解釈のみを許可することで一体的なDPを策定。
- DPの策定とCPの策定を同時に行うことで整合性を確保。

コミットメント・セレモニー

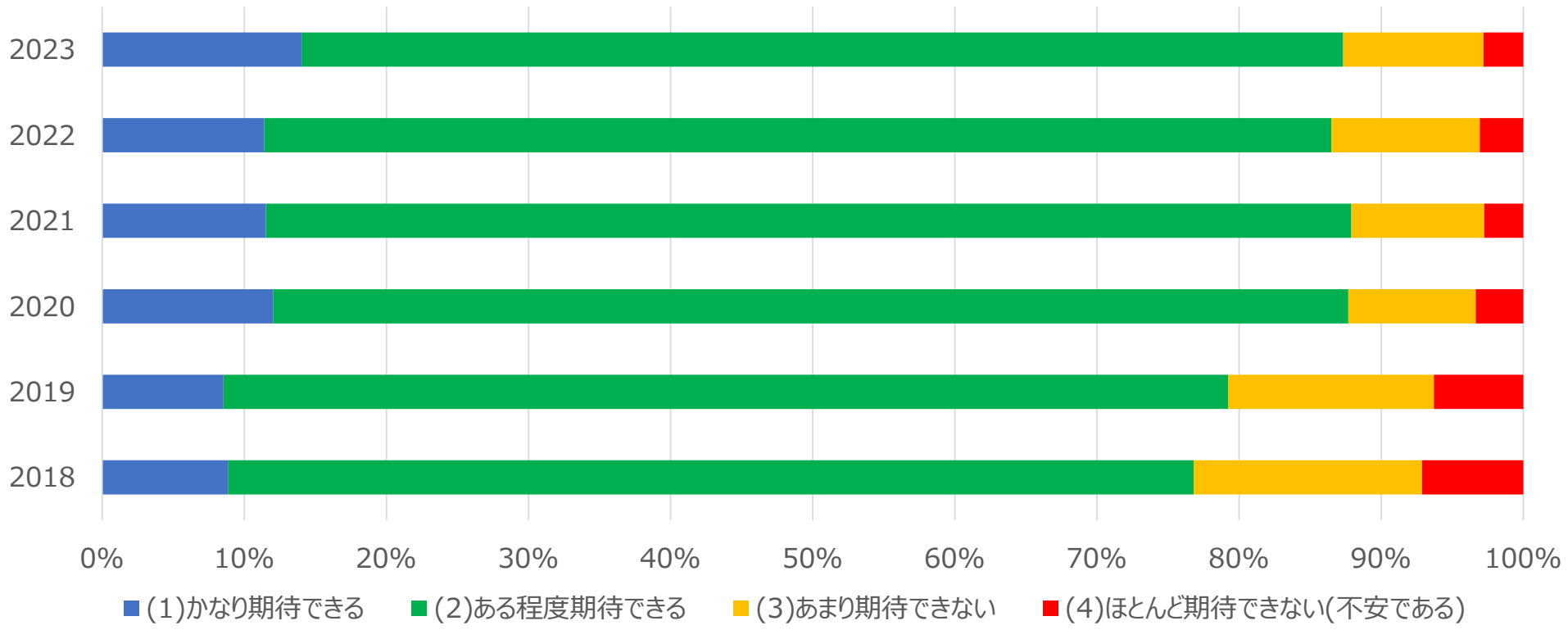
茨城大学 基幹webサイトより転載
https://www.ibaraki.ac.jp/news/2023/04/07011953.html

新 入学式当日のコミットメントセレモニーやコミットメントブックをとおして、ディプロマ・ポリシーで定めた5つの力の理解が進みましたか？



Department of Assessment and Planning for Higher Education, Office of Institutional Effectiveness, Ibaraki Univ., 2023

新 茨城大学の教育をとおして、ディプロマ・ポリシーで定めた5つの力を身につけることが期待できますか？



ワーク２ 教育の改善活動

貴学では、授業レベル、カリキュラムレベルで教育改善を図っていますか？

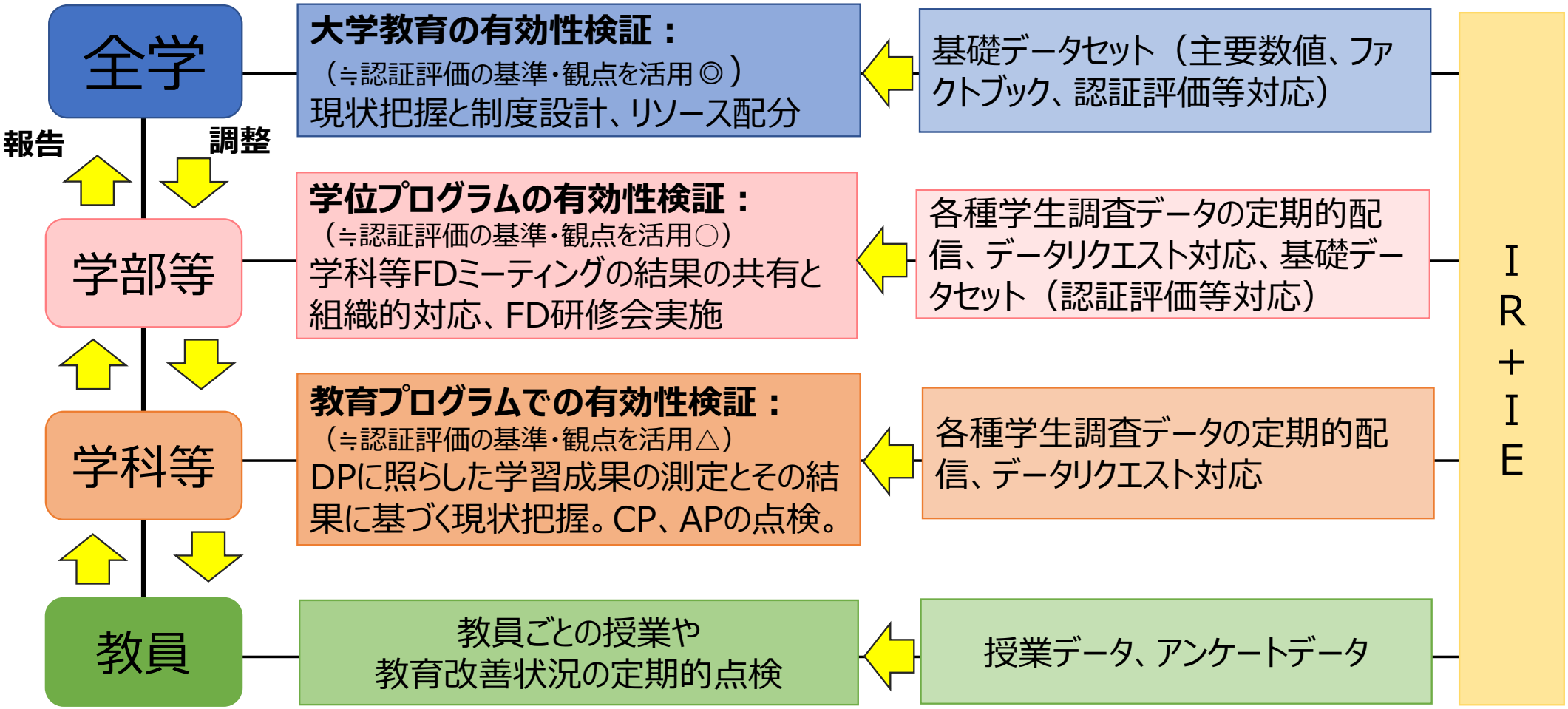
学内の方

学内：公開FDワーク２ 教育改善活動
https://forms.office.com/r/fAdKf1QrgT

茨城大学以外の方

学外：公開FDワーク２ 教育改善活動
https://forms.office.com/r/XkjqxB6AYP

4階層での質保証



実際は、メンバー構成で対応

場ときっかけとコンテンツ

場：既存の会議体、定例的な会議体を活用
きっかけ：とにかく見てもらう → 定例化、ルール化
コンテンツ：とにかく測る

- どのように学修成果を測るか。
  - 学内に眠っているデータを使う。みんなで使う。
  - とにかく測る。みんなに見てもらう。
  - 目標があって現状が分かれば差分をどうするか（≒評価）。
- 測ったデータを使って、どうやってみんなを改善に仕向けるか。
  - 日常化、習慣化。役割分担。測る側と使う側。
  - 現場が欲しいもの、こちらが持っているもの。

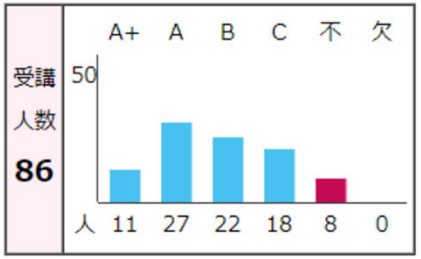
科目コード：　　[■自己評価結果を閲覧]

年度：**2021**　開講：**第２期 月・2限＋木・2限**　単位数：**2**　週あたりのコマ数：**2**

授業名：**プログラミング言語処理系 【２Q】情報工学科**

担当教員：[redacted]

ＧＰＡ：**2.08**　平均点：**71.1**　[データ修正]

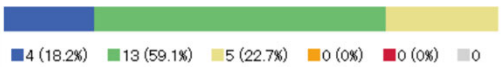


[授業アンケート結果 22名［工学部様式］]

項　目	問題点や改善策等
(1) 昨年度の授業を踏まえて本年度の授業で工夫した点とその効果、及び、課題として残った点とその改善策	今年度もコロナ感染症に鑑みて、授業は遠隔で実施し、最後のまとめの試験のみ対面で実施した。 授業の原稿は昨年度のものを微修正して利用したが、カリキュラムの変更で演習をやめたので、代わりに、毎回Formsを利用して課題を課した。課題や解答の作成などは、新規に作成したので、少し手間がかかった。 この講義は、ベクトル値関数の微分積分ではあるが、単に計算ができるということでなく、線積分・面積分の幾何学的意味や、勾配・発散・回転というベクトル上の演算の幾何学的意味についても触れるという従来の目標は達成できるようにと工夫した。 アンケートでは、専門性向上に役立ったという回答が多めであり、理解度・満足度も高かったので、よかったと思う。
(2) 本年度授業アンケート結果の分析によって出てきた問題点	リモートなので、学生の反応がわからないが、スライド・資料などが見やすかったとの記述があり、嬉しく思う。 小テストは、課題ファイル・回答のFormのアップ、課題の採点・フィードバック・集計など、慣れないことが多く、かなり時間が取られてしまった。昨年度TAに手伝ってもらったことも、全て自分で行ったので、思いのほか大変だった。 できれば、数学の授業は、対面が望ましいと思う。
(3) (2)の問題点について、来年度の授業での改善策	リモート授業2年目だが、演習がなくなったので、準備などは倍の手間がかかったように思う。来年度は、今回のファイルなどを利用できるので、楽になるのではと期待している。

問9　この授業に全体として満足しましたか？

N = 22/86 (25.6%)　肯：77.3%　否：0%

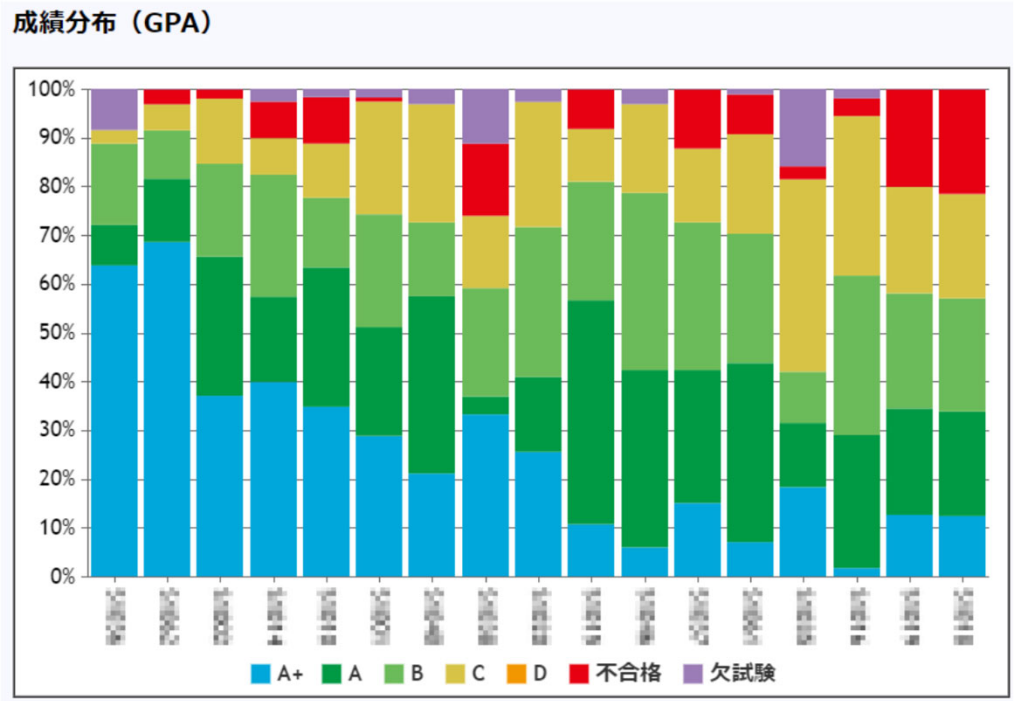


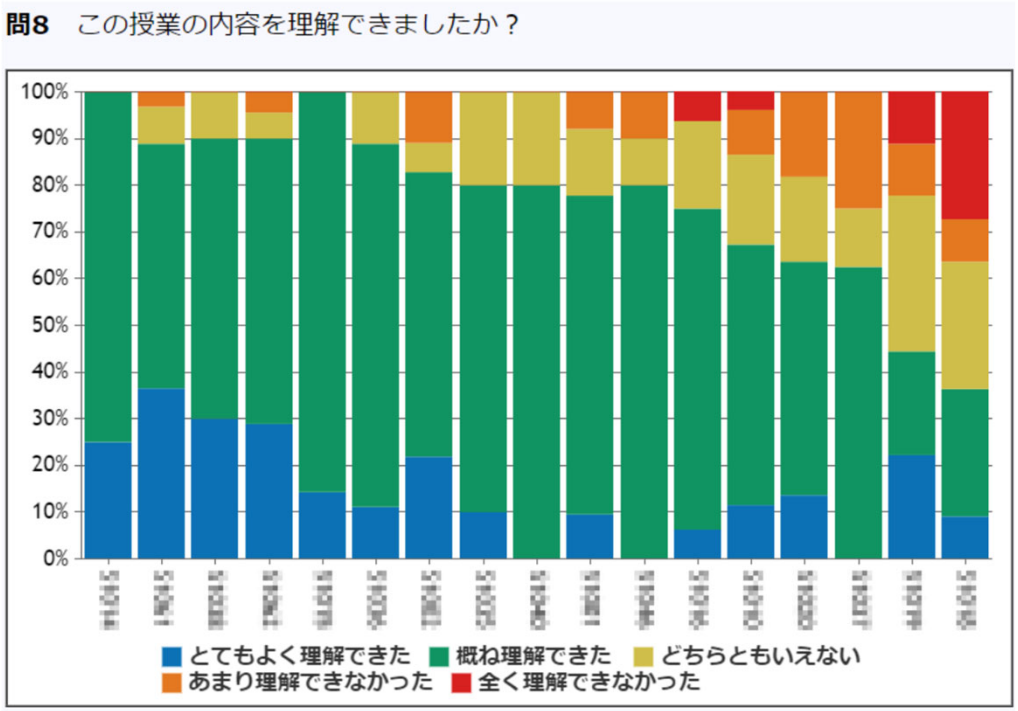
(1)■十分に満足
(2)■概ね満足
(3)■どちらともいえない
(4)■やや不満
(5)■かなり不満
■無回答

問10　満足度の判断理由を教えてください。（かっこ内の数値は上の設問の回答）

自由記述の回答は2件でした。
(1) コンパイラの動作を省略せず解説されたため。
(2) 資料が見やすかった

成績データ、授業アンケートを
閲覧しながら、毎年、授業点検を実施
【習慣化】【ワークフロー化】【システム化】





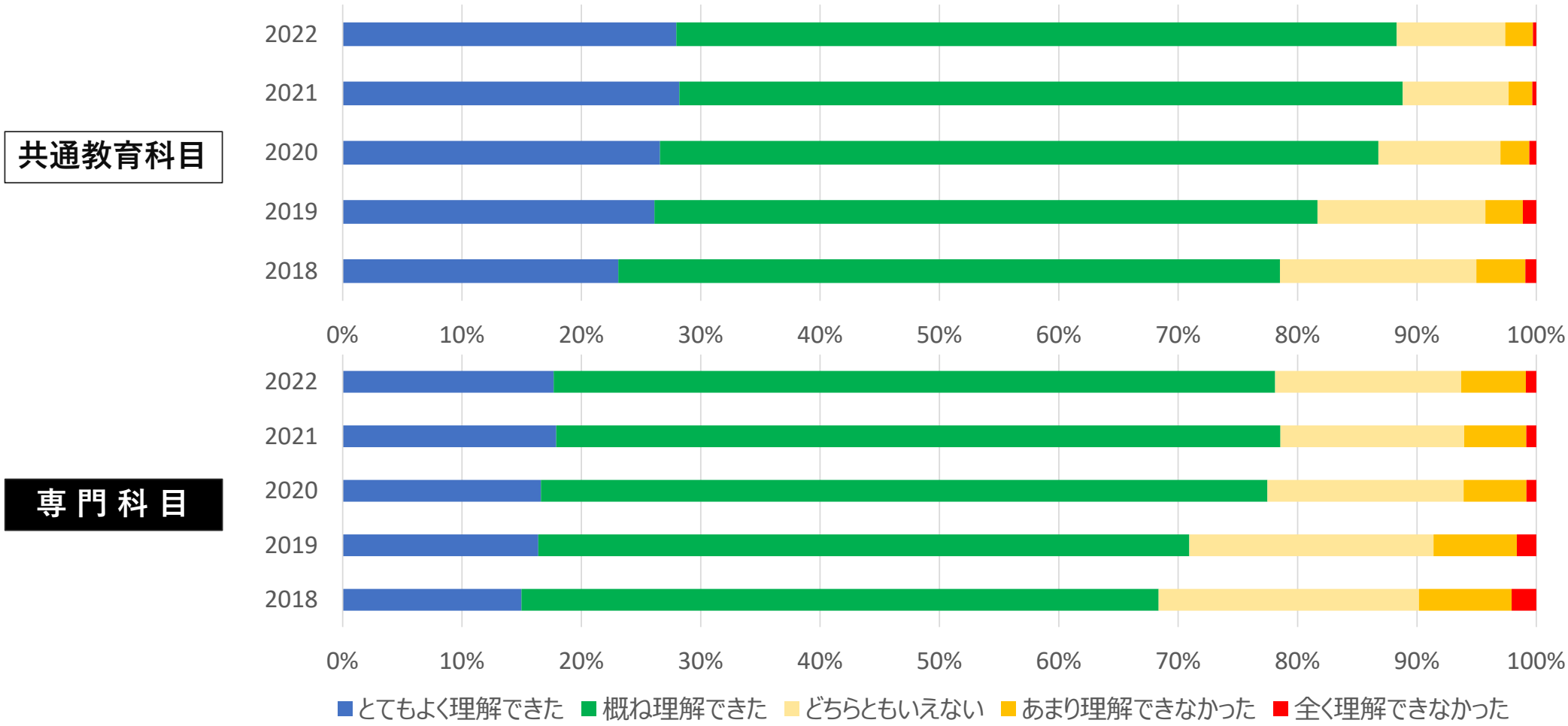
教員がカリキュラム単位で、成績分布や授業アンケートやシラバスを相互に点検し、改善する仕組み（文化）を醸成
【習慣化】【定常化】【システム化】

弱い活用と強い活用

	重視点	行動（改善）を促すもの	重視される点
強い活用	データ	データが直接示すもの	即効性（クリティカル）
弱い活用	教職員（現場）	データから促される議論による現状（目標との差分）の共有、合意	継続性（サステイナブル）、人と人との繋がり、組織力

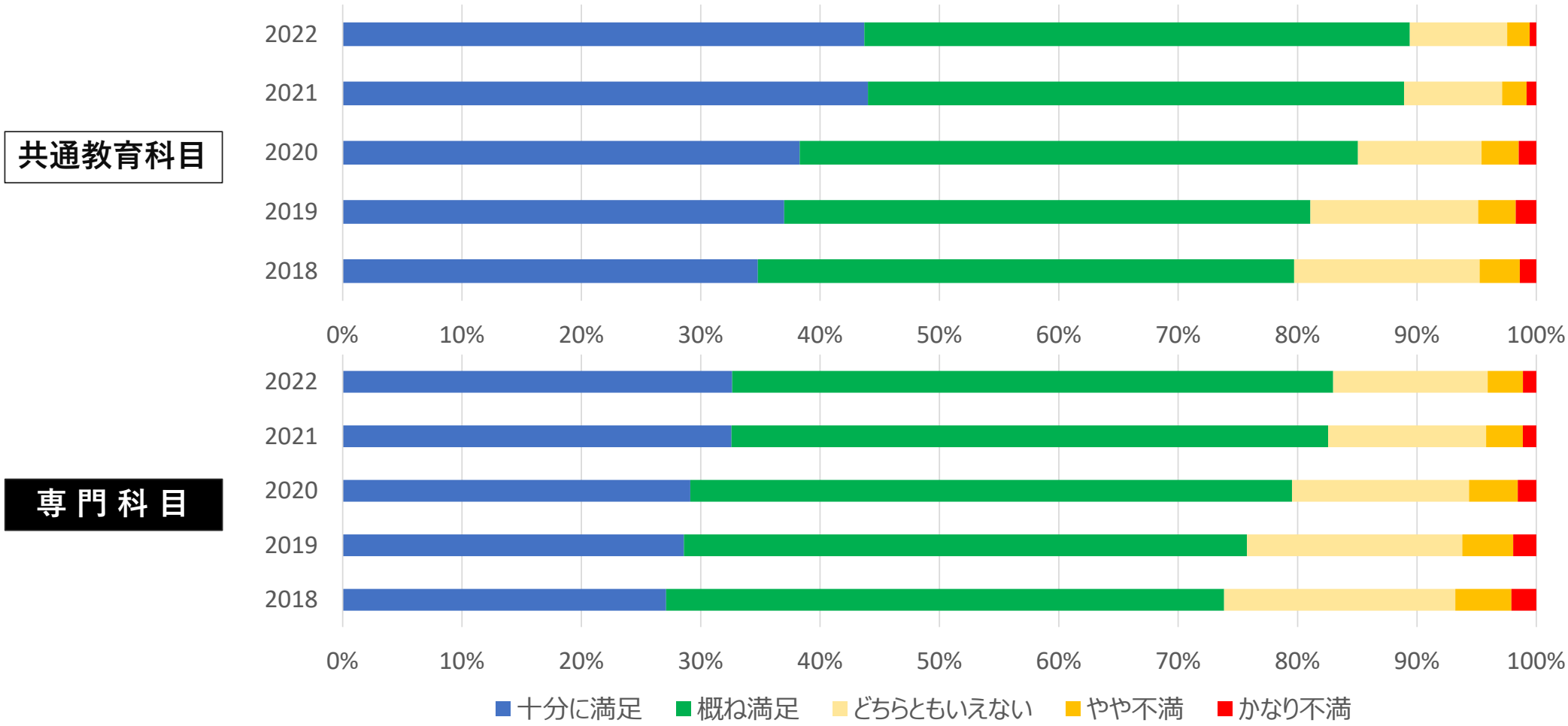
- IRがデータを集めて、配っただけでは、たぶん、うまく行かない。どうすればよいか。次の行動を促すには？ （→ 場ときっかけとコンテンツの提供）
- 内部質保証について、誰が指揮を執るのか。→ 整備しつつあるのでは？

この授業の内容を理解できましたか？



Department of Assessment and Planning for Higher Education, Ibaraki Univ., 2023

この授業に全体として満足しましたか？



Department of Assessment and Planning for Higher Education, Ibaraki Univ., 2023

キャンパスライフ・学生指導点検

- [ ] 学習支援、生活支援等のニーズは把握されているか。
- [ ] 問題のある学生に関する情報は共有されているか。
- [ ] 必要な研修（学生相談、メンタルヘルス）や安全対策は実施されているか。

※支援の満足度の測定は難しい。

S：実施済（ルーチン化）、A：実施し概ねルーチンになりつつある　B：着手済み　F：未着手または不明

学修成果点検

- [ ] 卒業時の学修成果の測定は行っているか。
- [ ] 卒業後数年経過の卒業生からの学修成果の調査は行っているか。
- [ ] 就職先から卒業生の学修成果の調査は行っているか。
- [ ] これらのデータは現場の教員等が活用できるようになっているか。
- [ ] これらのデータを用いて、現場の教員らが学修成果について議論ができる体制になっているか。

※教育改善に必要なのは、場ときっかけとコンテンツ。

S：実施済（ルーチン化）、A：実施し概ねルーチンになりつつある　B：着手済み　F：未着手または不明

シラバス点検

- [ ] 項目（授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等）は埋まっているか。
- [ ] 15回分の授業の内容の記述はあるか。
- [ ] 授業外学習時間の記述はあるか。
- [ ] DPとの関連はあるか。
- [ ] シラバスガイドはある。
- [ ] 点検手順などが決まっているか。

S：実施済（ルーチン化）、A：実施し概ねルーチンになりつつある　B：着手済み　F：未着手または不明

カリキュラム点検

- [ ] 授業アンケートの実施結果をタイムリーに授業担当者にデータを提供されているか。
- [ ] 成績データは本人がすぐに点検できるようになっているか。
- [ ] 教育プログラムの成績分布の点検を行っているか（教務委員会等での実施やFDミーティングが想定される。）
- [ ] CPどおりに科目が配置されているか点検を行っているか。

S：実施済（ルーチン化）、A：実施し概ねルーチンになりつつある　B：着手済み　F：未着手または不明

『現場が動きだす大学教育のマネジメントとは　茨城大学「教育の質保証」システム構築の物語』
編者：太田寛行（茨城大学学長）・嶌田敏行（茨城大学全学教育機構教授）
著者：「茨城大学コミットメント」プロジェクト
出版社：技術評論社
発売日：2023年4月28日
体裁：A5判、264ページ　ISBN 978-4-297-13509-6